



NETWORK VOL.128

TERRA



>>> 夢の学校 夏タマテ箱

小学生を対象とした自然体験と国際交流を一度に楽しむ夏休みの体験合宿「夢の学校 夏タマテ箱」も3年目となりました。晴天に恵まれ、野外での活動を思う存分楽しむことができました。子ども達の関心事は、なんと言ってもクワガタ・カブトムシ。残念ながら、今年はあまりたくさんはとれず、がっかりした子ども達も多かったようです。

「つみき遊び」は好評で、ヒノキの香りに包まれて、思い思いにオブジェをつくった上に、木や森の大切さまで学びました。国際交流では、カナダ、韓国、トルコ、ロシアから参加し、それぞれの国の紹介をしました。中でも、韓国料理のビビンクックスとトルコ料理のシシカバブは絶品でした。世界を隣に感じながら、自然の大切さや楽しさを十二分に体験した4泊5日でした。たくさんの新しい友達とたくさんの感動をいただき、ありがとうございました。来春開校の夢の学校(仮称)にこの感動をつなげていきたいと思ひます。(相良)

CONTENTS ■ 2007秋

第三の目 会長 古賀武夫 2

■地球市民の会

ミャンマーエッセイ 森中紘一	3
ヤンゴン便り 担当のつぶやき	4
ミャンマー・インターン日記 「タンボジ日和～晴れときどき腹痛」 山内一平	5
タイ奨学金	6
新潟中越沖地震現場レポート 浅野ゆうこ	7
青年海外協力隊レポート エチオピア 「アベベを生んだ高原の国」 大上貴謙	8
活動報告・協力者一覧・エッセイ	9

■夢の学校をつくる会

夢の学校にかける思い 古賀武夫	10
私の考える教育とは 井口潔	11
夏タマテ箱	10・11

■道場

夢！感動！情熱！	12
----------	----

■共同執筆

ひとこと「佐賀北、甲子園優勝…そのときあなたは？」 事務所住所、事務所スタッフ一覧	13
10～12月のお知らせ	14



「やっぱり、『感動』!!」

|| 人と人、心と心 ||

生きてると善い事が起きるものですね。

地球市民の会 会長

古賀武夫

■ ああ、感動

今年4月下旬、ある人が、19日付けの西日本新聞の切抜きを持って来てくれました。

見てみると、そこには、『佐賀で決まった人生』と言う大きな記事が出ているではありませんか。真ん中に一人の男性(あまり若くも無い、ちよつと額の上がった…)。何だろうかと思つて、読み始めましたら、何と、記事の中に私の名前がカタカナで「コガタケオ」と出て来るではありませんか！

その記事は、何と、18年前の1989年8月、「第4回小さな地球計画」と言う、地球市民の会主催のホームステイプログラムで私の家にホームステイした当時韓国は仁川の大学生、金萬真(キムマンジン)と言う人の記事だったので。

私たち家族、そして地球市民の会一同、記事中の「初めての海外、強烈な異文化体験！ ホームステイ先の我が家と佐賀での滞在を通じて、『なにもかもが新しい世界。将来何をするか、ここで決まった』」と言う彼の言葉に大感動！

彼は、韓国観光公社日本チーム長。この、8月下旬から福岡に着任されることを知り、またまた感動しました。すごいことですよ。20年経つと200年経つと、交流があった人とは、家族だと思つています。

そして、この記事の副題、「金萬真チーム長」として、日本の記憶は佐賀の記憶とともにある」の主人公、金萬真さんから、とうとう先日「福岡へ着任しましたー」と元氣一杯、喜び一杯の電話を頂き、佐賀での再会を心待ちにしている所です。

これはほんの一例に過ぎませんが、タイの奨学金においても、ミャンマーでの多岐にわたる事業においても、スリランカ他、どこの国の人も、人間と人間、心と心の付き合いが、いかに大切かを実感させられる嬉しい出来事でした。



■ いよいよ、9月29・30日、神戸での全国会員大会ですよ！

(会員以外も参加できますが…)

今年のテーマは、やっぱり、「KOBE 今年ののちのまつり」。私も、木村まさ子さん、松元隆司さん、佐藤昭二さん他とお話をさせて頂きます。

さて、どこの地球市民の会でも、感動、が一つの大きなキーワードになっていることは、言を待ちませんが、感動を興奮と誤解してはいけません。感動は、感性、そして、天とつながった魂の動きです。

私たちは、静中動有り、動中静有り、心を落ち着けて、もう一度、正に「第三の目」智恵の目を開き、現在の自分の中の靈性、本然、自然、神々を見つめる様努めて参りましょう。

現在、全国で13ヶ所の地球市民の会があり、仙台、大阪、釜山他、多くの場所でもうすぐ産声が上がることでしょう。

「この輪が、さらに大きな輪になり、身を修め(しっかりと)した自分を育み、志を持ち、家を整え、家族を愛し、国を治め、天下を平らかにする「調和」と言う環になっていくことを期待して止みません。

平成19年9月5日

会長 古賀武夫 拜



2007年4月24日からミャンマーのタウンジー「ミャンマー第3の都市人口40万ぐらいの中都市」へ、プロジェクトマネジャーとして赴任しました。

私は、この10年間、主としてJICA医療プロジェクトの専門家としてラオス、ガーナ、ケニアなどで海外勤務した経験がありました。ミャンマーは初めてです。またNGOでの仕事も初めてです。毎日毎日、色々貴重な体験を楽しんでいますので、いくつか雑談風に数回に分けて報告したいと思います。

今回はまず、循環型農業普及という事業に取り組み、私自身が思うところを報告します。

TPAのミャンマープロジェクトのもっとも重要な活動は、化学肥料・殺虫剤などに依存しない自然を生かした土着菌堆肥等を使った循環型農業をミャンマーの南シャン州のポオ一族の地域において普及することです。

土着菌堆肥農業は、日本の伝統的な農業を踏まえた農業技術ですが、ある意味で画期的な農業技術です。日本の現在の食のあり方については、自分の子供や孫のアトピーや喘息という現象を通して、大いに憂えていました。またJICAでは医療プロジェクトに従事し、医・食同源という言葉が身にしみている関係で、農業専門家ではないのですが、このプロジェクトの理念、方向性に関してはずぐに共感することができました。



循環型農業に関しては、実は我々日本人にとっても、ある意味で画期的なことではないかと思っております。私も夫婦も30年近く20坪程度の家庭菜園で野菜を栽培してきましたが、この循環型農業について知り、目からうろこが落ちたというような印象を持ちました。日本の農業の根幹に関わる問題提起がここに含まれていると思います。

また、NGOでの私の新鮮な体験にしてお話します。今までのJICAの活動は、資金が比較的潤沢でしたが、NGOではほとんど個人からの献金に依存しているのです。ぎりぎりまで活動をしてい

ます。一例が、活動用の車両がありません。ほとんど毎日悪路を通って、村訪問へ50Km〜70Kmを行ないますが、現在は借り上げ用のタクシーで動いています。これは、ひとつにはミャンマーでは、車へ中古の車でさえ、の値段が異常に高いからです。



森中紘一

の

ミャンマー幾山河

【第一回】

ミャンマープロジェクトと 宮沢賢治



TPAミャンマー事業責任者

森中紘一

2007年9月5日

1985

年前後の車（「マニユアル車」で日本円にして200万円、300万円、新車の四輪駆動車（ランドクルーザーのような車）では、1000万円を超える価格です。日本から運搬費を払っても輸入したほうがはるかに安いのですが、どういうわけかわがプロジェクトには車両がありません。

私は、車が日本人の庶民の手に届かなかった時代1960年代のことを知っているので、日常生活に車のない生活もいではないかと思つて市内の移動などは



もっぱら歩いていきます。健康にはいいものです。ときどき効率のことを考えないではありませんが、無いなら無い生活をするのが大事だと思っております。

同じことで、事務所にはコンピュータはありませんが、コピー機がありません。これも私には新鮮なことでした。

でも良く考えればコピー機が普及したのは、私にとってはつい最近の出来事で、コピー機がなくても仕事ができた時代があったことを考えて、15分ぐらいはなれたコピー屋さんへローカルスタップと一緒に歩いていきます。

こういう生活を楽しんでいます。この4ヶ月ミャンマーの南シャン州で働きながら、しきりに子供のころ暗記した宮沢賢治の「雨にも負けず」の詩が、口をついて出てきます。

雪にも 夏の暑さにもまけぬ

丈夫な体を持ち

欲はなく

決していからず

あらゆることを

自分を勘定にいれずに

よく見聞きしわかり

ほめられもせず

くにもされず

そういうものに私はなりたい

：ちなみに私は63才。一緒に赴任して補佐してくれている配偶者は60才、幸い二人とも親にもらった丈夫な体だけあります。

ではまた次回に。

ヤンゴン便り

ヤンゴンに現地調整員をしています二人の女性から、ミャンマーの身近な話をレポートしてもらいました。

ヤンゴン調整員 長谷川 朋子

TPAの仕事とは別に、お寺の僧院でボランティアとして日本語を教え始めてかれこれ1年半が経ちました。毎週日曜日の午後2時半から4時半まで2時間、中級レベルの日本語を教えています（先日は、TPA岐阜の大野さんが見学に来てくれました）。この僧院では、お坊さんとボランティアのミャンマー人を中心になって日本語以外にも様々なクラスを無料で一般に提供しています。

言語は他に英語と中国語、そして最近特に盛んなのがコンピューターです。基本的なパソコン操作はもちろん、ウェブデザインやグラフィックデザインなどのクラスもあります。生徒は大体20代から30代が中心です。

僧院ですら設備がそれ程整っているわけではありませんし、やたら暑かったり蚊に刺されたり、電気がなかったり窓から雨が吹き込んだりします。

それでもみんな本当に熱心に授業に聞き入っています。私の生徒は1年前から顔ぶれが同じなので、今ではみんな友だちのようです。

授業の後は近くのティーショップで1杯20円の甘い紅茶を飲みながら、ミャンマーのこと、日本のこと、将来の夢、恋愛についてなど、いろいろな話をします。

平日のストレスも、僧院で生徒やお坊さんたちと話をしていると吹き飛んでしまいます。日曜の午後のこの時間は、いつしか私にとってなくてはならないものになりました。ヤンゴンにお越しの際は、是非遊びに来て下さい。



僧院の生徒たちと

ミャンマー人好み 杉山 史恵

好みは人様々ですが、概ねミャンマー人が好む体形について今日はお話します。最近日本並みに細い女性がモダギャー（モデルガール）と呼ばれ人気が出てきましたが、まだまだ、太さが美の象徴という感覚が根強いんです。女性に男性の好みを聞くと、肌が白く太目、お腹にお肉がほどよくついた程度が人気高いです。お金持ちのイメージと直結するのでしょうか…。日に焼けた筋肉質が美しいと日本人女性は感じるものですが、やはりお国違えば好みも変わりますね。

さて、体の部分でミャンマーの人々が一番関心を寄せるのは、なんと言っても、オシリ！ 断然、オシリなのです。

ギターのようにメリハリがある体形も万国共通、好まれるのですが、ミャンマーではオシリがドーンと後ろに張っていることが重要です。私はヤンゴンのジムに会員登録をした際、インストラクターから、お腹の肉が落ちてオシリが張ってくるようにエクササイズしよう！とミャンマーらしいアドバイスを頂戴しました。コップが乗るくらい後方に張り出したオシリが美しいらしいです。ミャンマー舞踊を習っていた時には、私の先生は「あなたのオシリは美しくない。踊りをきれいに見せるために今日からオシリの大きくなる運動をしなさい。」と、スクワットを薦めるのですが、私は日本人、遺伝子の問題ですから、限界があります。逆に私のミャンマー人の友人は、日本でジパンやパンツ類が一切買えなかったと嘆いていました。日本人サイズではオシリのお肉が入りきらないようです。

お国変われば好みも体形も様々、案外、面白い発見があります。以上、こんな話題で恐縮ですが、参考になりましたでしょうか？

ミャンマー担当のつ・ぶ・や・き。

畑 恵子

地球市民の会にきて早1年3ヶ月、ミャンマー担当としてその責務をひしひしと感じ、その一方仕事に楽しみや喜びを見出している昨今です。しかし！いつもポヤポヤしているようで、やはり私にも悩みがあるのです。今回はそんな畑の様々なつぶやきを聞いてください。

～今、これが悩ましい～

●とにかく現地へ行きたい！

いつも現地の様子は駐在員のメールや文書を見るのと、ときどき大野氏の与太話を聞く限り…。もう1年以上彼らに会っていないので懐かしさは募るばかりですし、時々でも現場を見ることで、日本にいても事業の様子は把握しやすくなるものなのです。

●色んな方に一緒に行ってもらいたい！

ミャンマーのことは分かりにくいと思ってる方が多いと思います。でも一度行ってしまえば、その先入観や価値観は変わる可能性大です。私たちの仕事も彼らの生き方もとてもシンプルなのです。多様なツアープログラムをご用意しておりますので、是非一緒にまいりましょう！ちなみに次回ツアーは2007年12月5日(水)～11日(火)です。お待ちしております。

●資金不足なのです、、、

これまでも多くの方にご協力いただき、また助成金等で何とかやりくりしておりましたが、いよいよ資金不足が切迫してまいりました。しかし、私たちに信義をもってやり遂げるべきことが多々あります（ただし気負い過ぎず）。そして、「私にも何かできることはないだろうか」と思っている方が多いことも存じております。そこで、皆がハッピーになれるような活動を今後どんどん企画していきたいと思っております！アイディアの提供もお待ちしておりますので、ご協力よろしくお願いたします！

～こんなとき、ハッピー☆～

●現地の人々が喜んでくれたり、温かく迎えてくれたり、また私に色々なことを気づかせてくれる。また、日本の方々が共感してくださったり、感動してくださる…それが私の仕事への原動力になっているのです。

●ツアーやミャンマー人招聘などの交流事業を企画していますが、その段階からもうワクワクしています☆多くの方にご参加いただければハッピー最高潮です！

タンボジ日和 (^_^)

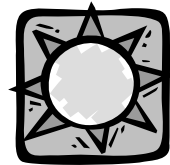
晴れとまじき腹痛

2007年8月吉日
山内 一平



日本のみなさん、ミンガラバーというところで、私がミャンマーにやってくるまで、早いもので四ヶ月がすぎようとしております。

ミャンマーの八月は暦の上ではちょうど雨季の真っ盛りにあたるわけですが、私が暮らしているタンボジ村では朝と晩に畑の土を湿らす程度に雨が降るくらいで、日中はそれこそめまいがするほどの暑さが続いております。



毎日の農作業の合間にふと空を見上げると、日本では見たこともないような大きな青空が広がっており、ホイップクリームのような入道雲がこんもりと空に浮かんでいる様子が目に入ります。

私がミャンマーにやってきてから、数えきれないくらい日本との違いを考えさせられてきたわけですが、そのうちの一つにこのような自然の豊かさがあげられると思います。

また、ミャンマーの八月といえば稲の収穫を間近にひかえた時期でもあります。マーケットへ行く途中に通る道の両側には見わたす限りの水田が広がっており、ちょうど今の時期は稲穂をたわわに実らせた稲が日の光をあびて金色に輝いている風景がどこまでも続いています。

「黄金の国ジパング」の黄金とは稲穂を実らせた稲のことだという説があるそうですが、それがもし本当

ならここミャンマーだって黄金の国ではないか、とつい考えたくなってしまうほど美しい風景です。

マーケットに行けば大勢の買い物客でにぎわっており、店先には新鮮な野菜やいろとりどりの果物がならび、仕立て屋さんの軒下には色鮮やかなロンジーや民族衣装がところ狭しとならべられています。

また、一歩町から外れると耕作用の水牛が道端の草を食べていたり、荷物を満載した馬車が目の前をパカパカ走っていたり、庭先をはだかでかけまわっている子供たちがいたり、とてもものどかで、ゆったりとした光景が見られます。

大きな町の子供とはだいぶ勝手が違うと思いますが、私が暮らしている村の子供たちはおしなべて恥ずかしがりやで、通りすがりに「ミンガラバー」とあいさつをすると、たいていの子供は照れたようにはいかみ、恥ずかしそうに逃げだしてしまいます。



私が日々接している寮の生徒もやはりみんな明るくて、素直で、そして恥ずかしがりやな子供たちばかりです。この寮では16名の高校生が寝食をともにし、循環型農業の勉強をしながら学校にかよっています。私も農業の勉強をしながら彼らに日本語を教えているわけですが、今年入寮した8名の生徒

は日本語を勉強するのが初めてなので、授業では簡単なあいさつや日常会話を中心に教えています。

今ではみんな簡単な日常会話ができるほど上手く話せるようになりましたが、最初の頃は、「ご飯を食べる前に手のひらをあわせて」「いつてきます」という女の子もいたりして、つい笑ってしまうときもありました。

なにはともあれ、頻りに停電があったり、落雷によりパソコンがこわれたり、寮にすみついたネコが赤ちゃんを産んでいたりと、自転車をこいでる途中にペダルがぼろっと落ちたりと、予想外の出来事に翻弄される毎日ですが、予想以上に充実した毎日です。

今年もミャンマーへの視察ツアーがあるそうなので、興味をもたれた方はぜひとも遊びに来てください。ほかからか恥ずかしがりやの子供たちと、かわいいネコたちがみなさんの訪問を待っております。

PROFILE

山内一平プロフィール
福島県出身、平成13年に熊本県に移り住む。いくつかの職種を経た後、NPO法人阿蘇ミュージアム認定のインタープリター（自然についての解説者）として活動していたところ、当会のミャンマー農村地におけるインターンに興味を持ち今年5月に赴任しました。常に自然体で気負いがなく、且つ熱意も溢れる好青年29歳独身です。現地には2008年3月までの滞在予定ですので、ツアーでタンボジ寮訪問の際には会うことができます。



少額奨学金だより

★HAPPY DAY★HAPPY SMILE★

今年も、里子と里親を組み合わせる、マッチングの時期となりました。

このニュースレターが皆様のお手元に届く頃には、タイのボーゲウヤウミテーパッターナ校と、クーキャオウィッタヤ校から奨学生として選ばれた学生のプロフィールが送られマッチング作業が進められている頃と思います。

タイの里子に 教えられて

前地球市民の会事務局長

西村尚子

今回は、タイ里親事業を最近まで担当してこられ、現在も理事として当会を支えていただいております。前事務局長の西村尚子さんに、地球市民奨学金事業の思い出について語っていただきました。

タイ地球市民奨学金との出会いは6年前になる。里親になることから始まり、その年タイの学校を訪れて里子と対面をした。里子のシテイチャイ・プロムソン君は、当時13歳。彼と彼の家族との出会いは、私に生きることの単純さ?と難しさを教えてくれた。この世に生を受け、家族の温かな愛に守られて成長し、社会に巣立つ。この単純とも当たり前とも思える人生が、少しの歯車がかみ合わなかったことで、彼はその後の人生で色々な困難を抱えることになった。



奨学金担当の先生と里親のみなさん

だけで農作業をしていた。優秀で先生から高い評価を受けていた彼だっただけに、教室の彼の空いた席を見て、何ともいえない気持ちになった。

彼だけでなく、ほとんどの奨学金受給生の環境は、家庭的にも経済的にも大きな問題を抱えていた。しかし、どうにもならない運命を受け入れ、「何をしてもらうか」ではなく、「何をできるか」という生きる力を彼らは持っている。私にとってそのことは大きな衝撃であり、魅力だった。

昨今、『幸福度』という言葉をよく聞か、先進国といわれる我々日本人は、これまでの失敗をどのように彼らに伝えていくのか。そして、彼らから何を学ぶことができるのだろうか。

また、来春に彼らを訪問します。一緒に彼らに会いに行きませんか?

今年度は未だ里親が足りない状況です!

クーキャオウィッタヤ中学 あと11名
ボーゲウヤウミテーパッターナ校 あと22名

計33名ほどの里親が不足しております(9月7日現在)。
12月初旬の各校への奨学金交付にむけて、あと33名の子どもたち分の里親を募集しております。
お知り合い・お友だち等、ご興味のある方にはぜひご紹介ください。

★浅野ゆうこさんからのお手紙が届きました★

また地震？ これは夢？ 目の前のテレビが飛び、食器が割れる音を聞きながら、足はすくみ心臓は高鳴り、すぐには事態を把握できないほど動揺してしました。

予想もしなかった2度目の大地震。散乱した部屋を目の当たりにして、深い徒労感と無力感に襲われました。住宅の補修やお店の再建など、がんばってやっと一息ついたところなのに…。



気力が萎え、何も手につかないまま放心状態でした。

そんな放心状態のときに連絡を下されたのが古賀会長さん。その温かな言葉が心に響き、そして大野事務局長さんからは、中越のために募金を集めて下さるとのお話をいただき、心配して下さる方々がいるということが、涙ぐむほどうれしかった。

私よりもっと大きな被害にあった人がいる！

おふたりの温かな言葉で気を取り直し、被害がひどい柏崎市へ向いました。友人たちは疲れた顔で「なーんにもなくなったよ…」と地を這うような声。避難所は蒸し暑く、何ともいえない臭気が立ち込め、高齢者の方々はぐったりし、うつろな眼差し



でした。私は胸がつまり、何かなくては!と居ても立ってもいられなくなりました。

被災者のじいちゃんばあちゃんにそう伝えたい…

「みんながついてるよ!!」

いまは仮設へと引越しも終わりましたが、突然、生活を失った大きな喪失感、住宅の再建への不安など、途方もなく重荷がおじいちゃんおばあちゃんの肩に容赦なくのしかかっています。

昨日も仮設にお邪魔したのですが、「元氣出せ、がんばってみんな言うけど、どうにもならんよ…」と力のない笑顔。

3年前、私も大きく被災し、どうにも気力が萎えたとき、何よりうれしかったのは、多くの方々が心配して、思いを寄せて下さったことです。

「大丈夫?」「何かあったら言ってね!」。そうしたことがとてもうれしかった。

その経験から、私はこの募金を通して、全国のみなさんが柏崎を心配し、温かなエールを送ってくださることを、被災者の方々に伝えたいのです。全国の人たち、そして地球市民の会のみんながついているよと。



募金の使い方は被災者の方々と相談して決め、経過はこの紙面をお借りしたり、私の通信などで報告します。

復興の道のりは長く、私たちの復興支援もあせらずゆっくり行こうと思います。どうぞみなさまの温かな気持を柏崎にお寄せ下さい。私たちが責任を持って被災者の方々にお届けします。

よろしく願いいたします!

新潟中越沖地震 現場レポート

上の文章は、地球市民の会長古賀武夫が阪神大震災被災12年シンポジウムで共にシンポジストとして出会った女性、浅野ゆうこさんからの手紙です。

浅野さんは2004年の中越地震で被災者の中でも特に「社会的弱者」と呼ばれる高齢者と障がい者を対象にした草の根の支援を行い、地域に元気を振りまくという活動をされた方です。

2004年、震災後の全国からの支援に「ありがとうと言うのが辛い」という精神的疲労に追い込まれていたおじいちゃんおばあちゃんたち。善意が当人を苦しめるという悲劇的狀況を何とか拭い去り、全国からの善意に本当の感謝を伝えられるようにするにはどうしたらよいか、これに取り組んだのが浅野さんでした。

ただ支援してもらうだけではなく、自分達自身で行動することで、全国からの支援や来てくれるボランティアにありがたの気持ちや伝えようと、町いっばいに花を植えることにしました。「私達はしてもらうばかりで何のお返しもできない。でも、町に花があつたら、来てくれた人たちが少しは嬉しい気持ちになつてくれるかもしれない。そしてそれが少しばかりのお返しにもなるかもしれない。」おじいちゃん、おばあちゃんのやる気が出てきました。明るい笑顔も戻ってきました。そして心から有難う、を言えるようになりました。

今回の震災で、私たち地球市民の会は同志とも言うべき浅野さんの側面的支援を実施し、具体的な力タチが見える、私たちがし心の通った応援をしていくことにしました。その名も『ゆっくりがんばろう、義援金』です。浅野さんからのお手紙をお読み下さい。

そして、「支援も宜しく願います。お知り合いにも、ご紹介いただければ、幸いです。

尚、先着50名様には浅野さんが提供して下さいました長岡、柏崎の復興支援ポストカードを1枚ずつお礼としてさし上げます。

エチオピア

アベベを生んだ高原の国

青年海外協力隊員としてエチオピアで活動をしている、大神貴謙（オカミタキ）です。この誌面を使って、エチオピアで気付いたことや感じたことをお伝えしています。今回はエチオピアの全体的な紹介をさせていただきましたが、今回は私の住んでいる街である、青ナイルの源流の”バハルダール”を紹介したいと思います。

大神貴謙



タナ湖をバヒルスボートで走る漁民

地理と人口について

バハルダールは、エチオピア高原の北西部に存在する、エチオピアで5番目の大都市です。標高約1840mの場所に位置するため、標高約2400mの場所に位置する首都のアジスアベバに比べると暖かく、アジスアベバが一年中秋とすると、バハルダールは一年中春といった気候が続きます。古代エジプト人に”エチオピアの宝石”と称された、エチオピアで最大の湖である”タナ湖”に面していることも加わって、バハルダールは非常に住み良い環境の都市となっています。アジスアベバからは約580km離れていますが、飛行機の路線があるので、首都への交通アクセスも便利です。現在、バハルダールには17万人弱の人々が暮らしていますが、これは合併前の佐賀市とちょうど同じくらいの人口ですね。

歴史と文化について

バハルダールを含むタナ湖周辺の地域は、エチオピア正教とアムハラ語をエチオピア全土に広めた、”アムハラの人々”の伝統的な居住地域となっています。そのため、長い歴史を持つ教会が数多く残っています。特に、タナ湖に浮かぶ島々に点在する教会の中には、モーセの十戒が納められた”アーク”が保存されていたという伝説を持つものもあります。これは、グラハム・ハンコックの『神の刻印』で話題になったことがあるので、ご存知の方もおられるかもしれません。インディ・ジョーンズが探していた「失われたアーク」は、バハルダールにも存在していたのです。他にもアムハラの人々といえば、”ウスクスタ”と呼ばれる、肩を上下に小気味良く動かす独特のダンスが有名です。バハルダールにおいての際は、吟遊詩人の集う”アズマリ・ベット”で、彼らの調べに乗せて肩を振るわせてみましょう。きっと一気に人気者になれると思います。



タナ湖について

ここでタナ湖についてもう少し詳しく説明しましょう。タナ湖は、アフリカ大地溝帯に沿って点在する湖の一つで、前述の通りエチオピアで最大の湖です。そして、エジプトを通過して地中海に注ぐ、ナイル川の源流でもあります。このタナ湖が湛える豊富な水によって、農業・漁業・綿工業・発電といった産業が成り立ち、バハルダールは賑わっています。バハルダールがエチオピア有数の観光地となっているのも、タナ湖のおかげです。タナ湖の教会群を周遊するクルージングや、タナ湖が注ぐ青ナイルの大瀑布”ティシ・サット”のパノラマを楽しむため、多くの人々がバハルダールを訪れています。なお、タナ湖に浮かぶバヒルス船やペリカンなどの野鳥を眺めつつ、エチオピアコーヒーを飲むのは、近隣の隊員たちオススメの優雅な休日の過ごし方となっています。



食べ物について

エチオピア北部で魚を食べられるのは、バハルダールを含むタナ湖周辺の地域だけです。切り身をソテーしたもの、カツレツにしたもの、一匹丸ごと油で揚げたものなど、エチオピアの魚料理も様々ですが、私が一番好きなのは”アサ・グラシュ”。これは、唐揚げにしたイズミ鯛の切り身を、トマトソースとエチオピア独自のスパイスである”バルバリ”で綴じたものです。日本に戻っても、この味は忘れられないでしょうね。さらに、バハルダールではお米を食べることもできます。雨季に水浸しになる湖岸地帯は、もともと農業不適地でしたが、日本が導入した日本晴というイネの栽培が広まり、今ではエチオピア最大の稲作地帯となっているのです。魚とお米が美味しいバハルダールは、日本人には最適の居住地なのかもしれません。

どうでしたか？ この紹介で、少しでもバハルダールを身近に感じてもらえたら嬉しいです。次回は、私の隊員活動の報告も交え、エチオピアのICT事情について述べてみようと思います。

協力者一覧 2007年6月～8月末日まで

正会員

岩本かおる 福井丈一郎 有澤正典
丹生谷宗久 天ヶ瀬三津代 中山重俊
前田昌子 神山秀美 山口スミ子
桃谷松美 中道法道 大島泰輔
溝上 茂 山下雄司 森 裕章
大石竜基 砂田昭彦 満岡 聡
古賀大之 佐藤昭二 佐藤純子
山下定美 井上常憲 馬場憲治
村田修一 西宮 寛 小松敏正

地球市民奨学金里親会員

クークャオ中学

蘭 和子 山口葉子 遠藤友子
本山義夫 山田利明 門松寛倫
式町伸子 佐藤さち子 江頭美智子
清水愛子 枡田文枝 末次摂子
高島美佐子 片淵健士 楨 美穂子
大原 侠 松尾邦彦 中村 元
八坂信雄 青柳達也 田久保克明
大島佐江子

クークャオ高校

下村照英 里中長治 於保孝子
山浦みどり 枡田文枝 峰 悦男
森田 恵

ポーゲウ校

森永邦子 原 康彦 田中嘉樹
岸川善光 北島義寿 坂井徳子

寄付

一般寄付

天ヶ瀬三津代 中溝澄子 式守佳男
中島俊子 海外教育推進協力機構 小山高生

ゆっくりがんばる義捐金

山下春美 長澤京子 川原田知章
龍 千秋 志岐貴宏 高田理恵

ミャンマー電巻支援金

青柳達也 佐賀電算センター 寶泉正美
秦 智美 田中哲生

ミャンマー教育基金

長澤京子 佐野由美子 馬場龍之介
龍 千秋 吉野重幸 小松敏正

ミャンマー事業

古賀美佐子 森郁代 御厨初美

切手・書き損じはがき

栗林修士 西村一守 桃谷奈希
武田朋子 大久保孝雄 杉本善博
麻生美矢子 あさひ荘 磯部芳子
林 酸素商会(株) 中溝澄子
基山町 社会福祉協議会
武雄市立武雄中学校 生徒の皆様
唐津市立第四中学校 生徒の皆様
(株)三田川金属工業 中原工芸社
NHK佐賀放送局 倉富博美
龍 千秋
NPO法人ちゅうりっぷのうた

順不同で掲載させて
いただいております。

大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。
いつも本当にありがとうございます!!

掲示板

帰ってまいりました!!

事務局長 大野 博之

皆様、ご無沙汰いたしました。約3年間のミャンマーの任務を終え、いよいよ本格帰国となりました。ミャンマーに滞在の折には色々とお心遣いいただきました皆様へ心から御礼申し上げます。

さて、帰国後改めてまた、事務局長をさせていただくこととなりました。今後は国内に向けた活動が中心になります。ミャンマー帰りの利点を生かし、現場のリアリティを広く会員をはじめ多くの皆様にお伝えし、地球市民の会の活動を活性化していきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。まずは、会員の集える機会としてアジアセミナーを実施し、ミャンマーのお話をさせていただいています。どうぞ皆様お集まりください。

- 日時: 10月26日(金) 18:30～20:00 ミャンマー少数民族ポオーの考え方について
- 場所: 佐賀市駅前中央1丁目 アイスクエアビル 5階大会議場

活動報告

日	内容	会場	講師
7/10 火	バリ祭佐賀祝賀会	会長・畑	エスブラッツ
7/26 木	ミャンマー事業評価会議		古賀道場
8/1 水	杉山さん ミャンマー派遣		
8/2 木	サントリー地域文化賞授賞式	松尾	東京
8/24 金	アジアセミナー 第一回	畑	アイスクエア
8/25土・26日	井口感性塾 合宿スクーリング	窪川	各所
8/27 月	JA事業報告	大野・畑	

韓国との新しい国際交流「新・カチガラス計画(仮称)」 実行委員募集!!

88年から92年まで実施された日韓交流事業「カチガラス」計画は、日韓の誤解と偏見に満ちた関係に終止符を打ち、草の根の交流で友情を築こうという事業でした。「やっぱり人間はだりだん一緒じゃった。(やっぱり人間は誰でもみんな一緒だった)」という宣言の元、日韓の友情を芽生えさせ、事業の役割を終えました。

今、日韓関係は友情を築く段階から世界に平和を築くパートナーとしての信頼関係をつくっていく段階に移行することが必要ではないかという意見を受け、新たな日韓交流を目指した「新・カチガラス計画(仮称)」を計画することになりました。

この日韓交流事業の目的、および事業などの具体的な立案、そして実効に携わる実行委員会を立ち上げることになり、興味のある会員さんに募集をいたします。

会員さん以外でもご興味がありそうな方にお声掛け頂きたいと思います。

今、あなたのヘルプで 母国への支援が増えるのです★

会員の皆様!! 事務局からお助けのお願いです!!
事務局の事務量増加で、事務局がパニック!!
定期的に事務局のボランティアが可能な方を募集します!!

主な事務内容

- 地球市民の会のパンフレットや案内などの送付
- 会員さんやご寄付者への礼状送付
- 海外の子どもからの手紙、海外の子どもへの簡単な翻訳(日本語⇄英語:中学レベル)
- 会報の送付
- 古切手の整理
- 郵送物のファイリング
- バザーなどの企画やお手伝い
- その他

“自然”、ヒトを超えた智恵有る人間への道

超えて、超えて、超えて

理事長 古賀武夫

さて、ご存知「井口感性塾」は、酷暑の夏、4回の熱いセミナーを終え、8月25、26日は、東京からの参加者も加え、総勢24、5名の参加で、都からは程遠い鄙びた風情の佐賀県佐賀市富士町の古湯温泉に泊まり、一泊二日の大変有意義な合宿を行って参りました。参加できなかった方々には、とても惜しいことをされた、と思います。

その中で、私が、最も感じ入ったことを一つだけ書かせて頂きたいです。

この合宿の半分は修学旅行の様なもので、一日目は、自然農法、循環農法をやっておられる鹿島市の藤井敬三氏の農園を、武雄市の世界でただ一人の陶彩画家、草場一寿氏(絵本「いのちのまつり」、「つながってる」の原作者でもあります)の今心工房で、陶彩画を、そして、一級建築士、山田信行氏のNPO法人循環型たても研究塾が創っておられる藁の家を、見学して来たのであります。

この三方には、共通項がありました。それは、“自然”と言うことでした。何故か、“進化”の過程で知性を与えられた人間は、もはや、完全な自然状態で生きて行く事は不可能に思えます。

井口先生の言われる様に、人は、この両刃の剣の知性と言うやからを、賢く深く使わねば、善く生きて行くことはできません。既に、人の行為の全て、況や農業にしても、厳密に言えば、不自然であり、焼き物にしても、家にしても然りなのであります。

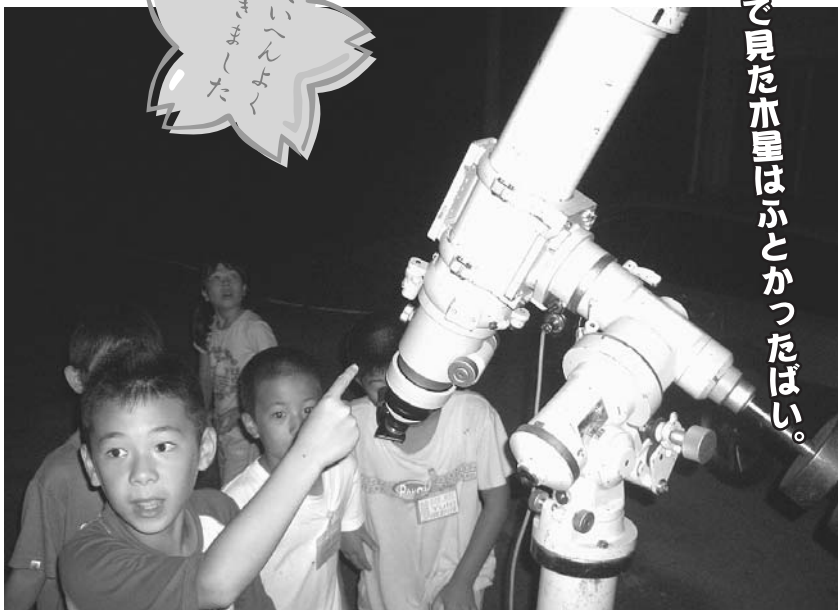
しかし、この三方は、出来得る限り、人の手を入れていないのです。極力、自然、天、神仏の力と言っても良いでしょう、自分を超えた大いなる力、自然の循環とリズムにおまかせして、作物を作って頂き、絵を描いて頂き、家を建てて頂いているのです。作って頂くだけではありません、なるがまま、崩していただき、消滅させて頂くことも含まれます。それが、天、地、人の大いなる「循環」、人の智慧と言うことです。

そこで、ヒトへの応用、井口理論の登場となります。教育は、先生が生徒、親が子を、上から下へ訓えて行くだけではないのです。人間の持つ特異な脳の成長段階(これも自然が与えたもうた性質ですが)と言う自然のリズムとテンポに合った教育を行うことが、ヒトを智恵有る人へと導く最良最高の策であり、幸福と平和と大調和への道なのです。

自分が変われば、世界が変わります。「川上清めば、川下、澄む」、であります。まず、大人から変って参りましょう。そして、体徳智、忠孝仁義礼智信を備えた、志を持った有徳の士、自分にも世界にも貢献できる人へと、ともに成長して参りましょう。それが即ち、この夢の学校をつくる会が、来年度開校させる小学校の目指す目標なのであります。

平成19年9月5日

タマテ箱



「夢の学校」の開校、万歳!

ヒトの教育の会会長
九州大学名誉教授
佐賀県立病院好生館名誉館長

井口 潔



未熟な大人が増えてきています。

子どもの目に輝きがない。戦後、奇跡的に廃墟から立ち直り、経済成長を成し遂げたわが国では、どうしたわけか教育に関してだけはひどく質が落ちているのに気づきます。

教育畑の素人の、外科医の私が86歳にもなって、なぜ子育て・教育のことに熱を湧かせているのでしょうか？

大正年間に生まれ、大正デモクラシーからミリタリズムの風潮の中で育ち、戦争にも参加して、戦後の復興の経緯を一市民として眺めてきた者として、昨今の荒れた教育の姿は全く黙視出来ないのです。

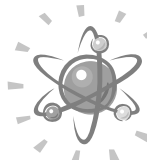
医師である私にできることは何か。教育を生物学的に眺めてみたいと思ったのです。

病気の原因・診断・治療に必要な知識は、人間とはなにか？心の成長生理の仕組みはどうなっているのか？を考えるのに役立つことを知ったのです。

戦後は経済、物質文明のために役立つ人間を育てるための有効な投資として教育を合理的に謳ってきましたが、それが間違っていたのです。教育は経済に従属する立場のものという考えが定着してしまっていて、「人間をつくるのが教育」という当然の基本概念がなくなってしまったのです。この際、「物質文明のための教育」の考えは一応捨て、「この子を人間に育てよう」と心を新たにしましょう。そのためには大人が「善き人間」にならんと決心することです。大人がよくなれば、子どももよくなります。

赤ん坊は霊長類ヒト科の動物です。ヒトは金玉のすばらしい可能性を秘めており、「ヒトを人間にする」ための助けの役目が教育なのです。子どもは3歳、10歳、20歳と大まかに3期に分けて、「心の成長生理の仕組み」に特長があります。10歳までは古い脳(大脳辺縁系)で感性を仕上げる時期で、ここで「生きる力」が育ちます。11歳から新しい脳(大脳皮質系)で知性を仕上げ、「生きる手段」を覚えます。この順序を手堅く守って子育てをすれば間違いはないのです。

幼年期教育が大事です。「たくましく生きること」を体で覚える時期です。頭で覚えるのは青年期からです。親、教師の感性が子どもの感性を共振させたときに、子どもの「生きる力」は目覚めるのです。この考えを実践してくれるのが「夢の学校」と期待しています。明治維新には佐賀七賢人がいましたが、平成維新の今、「古賀武夫」という賢・奇人の「夢の学校」に全幅の応援をしようではありませんか。



自然体験と国際交流

2007年 夏



県内外から27名の元気な小学生が参加。
ゆたかな自然の中で、外国のお兄さんお姉さんと一緒に、
感動の日々を過ごし、みんな、ほんのちよっとたくましくなりました。



地球市民ネットワーク

- 北海道地球市民の会
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長／阿部功 事務局／新保知博
TEL・FAX：0133-74-1296
- 地球市民の会ふくしま
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1
榊石黒
会長／事務局担当 石黒秀司
TEL：024-959-6426
FAX：024-959-6577
- 地球市民の会東京
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長／有澤正典 事務局／青木高広
TEL：03-3662-0331
FAX：03-3662-0400
E-Mail：aoki@nun.co.jp
- 地球市民ACTかながわ
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長／近田真知子 事務局担当／伊吾田善行
TEL・FAX：045-622-9661
E-Mail：port@tpak.org

- 地球市民の会ぎふ
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長／森幹治 事務局担当／秋葉幸信
TEL：059-226-5700
FAX：059-224-8911
E-Mail：miemiemiemi21@hotmail.com
- 地球市民みえの会
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターパレス3F
津市市民活動センター内
会長／伊藤洋之 事務局担当／秋葉幸信
TEL：059-226-5700
FAX：059-224-8911
E-Mail：miemiemiemi21@hotmail.com
- 地球市民の会京都
〒605-0873 京都市東山区下島町484
会長／宮川尚子 事務局担当／西田一貴
- 神戸戸有頂天倶楽部
〒657-0045 神戸市灘区下河原通り3丁目4-3
会長／松元隆司 事務局担当／大西陽治
- 古賀英語・空手道場
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952-25-2295
FAX：0952-26-4922

- 愛媛地球市民の会
〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640
はばたき授産園内
会長／篠崎和夫 事務局担当／丹生谷宗久
TEL：089-963-3772
FAX：089-963-3795
- 北九州地球市民の会
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長／河野一郎 事務局担当／大山研児
TEL：093-521-8181
FAX：093-551-2296
- 地球市民の会福岡
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
絳増屋内
会長／増田誠司 事務局担当／西村和寿
TEL：092-801-5888
FAX：092-801-5789
- (特活)コミネット協会
〒861-8039 熊本市長嶺南2丁目5-31
会長／山口久臣 事務局担当／富田、田中
TEL・FAX：096-387-7139
- 夢の学校をつくる会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952-22-6262
FAX：0952-26-4922



スタッフの
ひとこと

佐賀北高校野球部甲子園優勝！その時あなたは？

地球市民の会

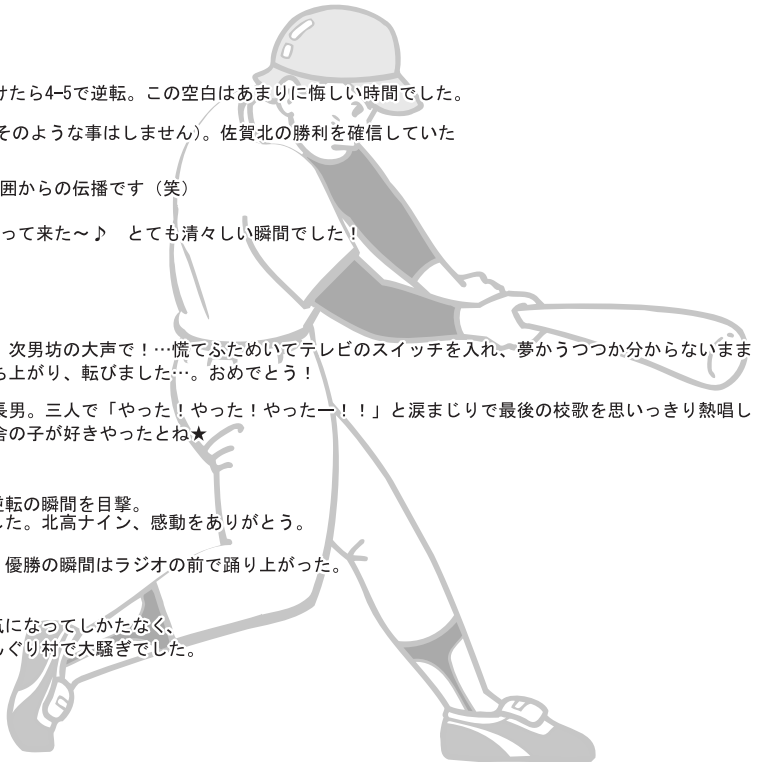
- 大野博之 古賀会長と外出の瞬間、事務所では4-0、車に乗ってラジオをつけたら4-5で逆転。この空白はあまりに悔しい時間でした。
- 窪川 智 事務所です仕事をしながらラジオで試合を聞いていました（普段はそのような事はしません）。佐賀北の勝利を確信していた私には納得の結末でした。
- 畑 恵子 事務所でのラジオ…上の空でした。興奮と感動と試合内容も、周囲からの伝播です（笑）
- 落合清一 車の中で聞きました！感動しました！！ 佐賀北、それ来た、やって来た～♪ とても清々しい瞬間でした！
- 納富ハヤ子 ひとり淋しくテレビの前で“やった～”とガッツポーズでした。

古賀英語道場

- 古賀洋子 家でウトウトしていた時、次男坊の大声で…慌てふためいてテレビのスイッチを入れ、夢かうつつか分からないまま「バンザーイ！」突然立ち上がり、転びました…。おめでとう！
- 山下春美 OBの夫、OGの私、西高の長男。三人で「やった！やった！やったー！！」と涙まじりで最後の校歌を思いっきり熱唱しました。今年の魔物は田舎の子が好きやったとね★

夢の学校をつくる会

- 相良伸武 事務所です仕事をしていた私は、たまたまパソコンで逆転の瞬間を目撃。佐賀んもの根性は見してもらい、元氣ばもらいました。北高ナイン、感動をありがとう。
- 吉村 薫 勢いに乗って帝京戦で甲子園に駆けつけたワタシ…。優勝の瞬間はラジオの前で踊り上がった。その姿に圧倒されていた子ども達も喜んでいました。
- 秦 里美 この日は、月～金タマテ箱の遠足でしたが、試合が気になってしかたなく、携帯で試合速報を見ながら子ども達と一喜一憂。どんぐり村で大騒ぎでした。



季節は冬に向かいます！ 風邪には気を付けてがんばりましょう！

ネットワーク・テラ秋号 VOL.128
発行／特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ：http://tpa.nk-i.net
E-mail：office@tpa.nk-i.net
TEL:0952-24-3334 FAX:0952-24-7321

発行日／2007年9月20日
発行人／古賀武夫
編集人／地球市民の会 事務局
印刷／榊サガプリンティング

テラコンソーシアム スタッフ一覧

地球市民の会	事務局長	大野 博之	古賀英語・空手道場	事務局長	古賀 洋子
	奨学金・国内事業・総務	窪川 智			山下 春美
	ミャンマー事業	畑 恵子			
	広報	落合 清一	夢の学校をつくる会	事務局次長	相良 伸武
	タイ事業担当ボランティア	西村 尚子		教務主任	吉村 薫
庶務ボランティア	納富 ハヤ子		たまた箱担当	秦 里美	

来号は、スタッフ紹介特集だよ～

行事予定



夢の学校をつくる会

年末！
車の運転には
気をつけよう！



【みんな集まれ、タイの子どもがやってきます!!】

11月24日(土)～12月3日(月)まで、地球市民の会が奨学金を出している、タイ王国ウドンタニ県のクーキャオ学校から高校生3名、担当のスラポン先生が日本にやってきます。各種イベントが企画されています。詳細は事務局にお問い合わせください。近日中にホームページで詳細をお知らせします。

地球市民の会

古賀英語・空手道場

10月

9/29日(土) 13時30分より
【テラリング全国会員大会 In 神戸】
地球市民の会の会員が神戸に集います。絵本「いのちのまつり」をテーマにスライドショーや講演、座談会が行われます。皆さん、神戸で会いましょう!!
場所:神戸市立灘区民ホールにて。
※詳しくは別紙をご覧ください

【植田伸子ピアノリサイタル2007】
地球市民の会の会員植田伸子先生の最重要レパートリーであるベートーヴェンのピアノリサイタル。静謐と奔流、迫真の演奏を堪能してください。今回は長崎、佐賀、福岡、東京で演奏します。詳しくは別紙をご覧ください。

3日(水) 19時開演 (18:30開場)
【トークとクラシックのひとつとき】
♪♪♪秋の夕べに素晴らしいコンサートにいらっしやいませんか♪♪♪
1部では、幼児期の「感性」の教育の大切さを、元佐賀県立病院館長の井口潔先生が、医師としての立場から分かり易くお話してくださいませ。2部では、佐賀ではなかなか聴けない超一流のバイオリン、フルート、ピアノ奏者によるクラシックの演奏会を致します。チケットは道場にありますが、是非お越し下さい♪♪♪
入場料:2,000円
(大人・子ども共に 当日2,200円)
第一部:子育ては幼児期の感性教育から (井口潔氏)
第二部:バイオリンとフルートの夕べ

26日(金) 18時30分より
【アジアセミナー 第三回】
地球市民の会事務局長 大野博之によるミャンマー報告会。第3回はポオー族の人々の生き方や考え方に焦点を当てて行われます。佐賀市アイスクエアビルにて。
※詳しくは別紙をご覧ください。

11月

2日(土)
【釜山韓日文化交流協会20周年事業】
15年以上の地球市民の会のパートナー釜山韓日文化交流協会の20周年記念パーティが釜山にて行われます。釜山へみんなで行きましょう。


ぜひ
おいでくださいね!
お待ちしております!!

23日(金)～25日(日)
【子ども華道展】
(夢の学校月～金タマテ箱参加予定)
草月流の前田先生から週2回お花を教えていただいています。今年はその成果を発表することになりました。是非、見に来てください。

12月

5日(水)～11日(火)
【ミャンマー事業視察ツアー】
地球市民の会ミャンマー事業の視察に行きませんか?今回は事業に関わる村人や子どもたちの交流を中心に地球市民の会の事業を短期間で回るツアーです。ミャンマーに、国際協力に、農業に、教育に、子ども達に興味がおありの方は一緒にいたしましょう。詳しくは別紙をご覧ください。

- 5日(水) ミャンマーの首都ヤンゴン泊
- 6日(木) タンボジ研修センター視察、高校生と交流、タウンジー泊
- 7日(金) 少数民族 ポオー族の村及び事業視察、タウンジー泊
- 8日(土) 少数民族 ポオー族の村及び事業視察、タウンジー泊
- 9日(日) インレー湖観光 孤児院視察
- 10日(月) ヤンゴン観光、深夜便で帰国
- 11日(火) 早朝帰国
費用:19万円
(非会員は21万円になります)

24日(月) 午後から
【第28回古賀英語道場英語劇祭】
MUSICAL
「FESTIVAL OF LIFE Where do I come from?」
古賀英語道場最大のイベント「英語劇祭」。今年は、オリジナルミュージカル「いのちのまつり」を上演。ドラゴンボールZ等人気漫画の脚本家である小山高生さんが英語劇用に書き下ろして頂きました。今回は、より楽しめる様に日本語のナレーションや工夫もいっぱい。



生徒総出演でお届けします。もちろん、クラス劇もしますので、是非お越し下さい!
場所:東与賀町文化ホール

原作絵本も
絶賛販売中!!

1日(土)
【教育シリーズ④】
講師:東京純心女子大学学長 田崎清忠
田崎先生にはこれまで実践してこられた英語教育の体験から、先生の教育観についてお話ししていただきます。ご期待下さい。

24日(月)
【古賀英語道場英語劇祭】
★夢の学校月～金タマテ箱特別参加予定★
今年は英語でミュージカル(らしきもの)に挑戦。どうなりますことやら?お楽しみに!

28日(金)
【夢の学校をつくる会もちつき】
一年の締めくくり、「もちつき会」。来年も良い年でありますようにと願いをこめて、ベッタコ!!